

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No.1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と次年度への課題
<p>1 学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めると共に、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。総合的な探究の時間や課題研究などの探究活動をより推進していく。</p>	<p>① 国のGIGAスクール構想の実現に向け、ICTの有効的な活用方法を研究し、生徒の主体的な学びの実現に向けての実践を行う。</p>	<p>生徒が授業でICTを有効に活用し、主体的に学ぶことができたと回答した生徒の割合が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期生徒による授業評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【94】% 1年 【96】% 2年 【93】% 3年 【93】%</p>	<p>1人1台端末を活用した授業づくりの実践により、ICTの効果的な活用と主体的な学びが浸透している結果となった。前期と比較して全体では1ポイント減少しているが、R6年度と比較し2ポイント増加した。教員のICTの効果的な活用については、さらに研究を進める必要がある。今後も生徒に主体的な学びを提供できるよう、研究と実践を継続していく。</p>
	<p>② 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。</p>	<p>生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【94】%</p>	<p>肯定的評価の割合は前期と同じ結果となった。今後も一層の評価材料、評価方法の蓄積を進め、生徒を多面的に評価するために評価方法を工夫するとともに授業改善に取り組んでいく。</p>
	<p>③ 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。</p>	<p>授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【88】% 1年 【80】% 2年 【91】% 3年 【94】%</p>	<p>R5年度82%、R6年度89%、R7年度は88%と高い水準となっている。さらに3年生の肯定的評価の割合は94%となっており、表現力の向上をねらいとした学習活動を授業に取り入れてきた成果が出ていると言える。 R8年度も引き続き、学習活動はもとより、学校行事などにも「表現する力・伝える力」を発揮できる場面を多く設定していきたい。</p>
	<p>④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握に努め、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。</p>	<p>3年次の全商検定1級3種目以上の取得者が、</p> <p>A 120人以上である B 100人以上である C 80人以上である D 80人未満である</p>	<p>評価：【 C 】</p> <p>91名</p>	<p>R6年度の反省を踏まえ、R7年度当初より3年生を含め全学年で資格取得の意欲向上に向けて取り組んできた。最終での3種目以上取得者の人数は91名で、昨年度比1.8倍となり、成果は上がったと言える。 1、2年生においても資格取得への動機づけのほか補習体制を含め商業科全体で情報共有を図りながら、現状把握に努め、取得者増加に向けた取り組みを実施する。</p>
	<p>⑤ 3年間を通しての金商版探究プログラムを作成し、総合的な探究の時間や課題研究の探究活動の充実に取り組む。</p>	<p>授業の学習活動の中で「主体的に粘り強く取り組む姿勢が身に付いた」と感じる生徒の割合が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【89】% 1年 【84】% 2年 【89】% 3年 【95】%</p>	<p>総合的な探究の時間や課題研究を通して能登復興をはじめとする地域課題に向き合ってきた結果、肯定的評価が89%となった。特に、3年生の95%という数値は、困難な状況下でも諦めずに考え抜く力が、探究活動を通じて確実に内面化されたことが伺える。また、1・2年生に対しても、より早期に探究の醍醐味を感じられるプログラムを提供し、学校全体の探究サイクルをさらに加速させていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>検定試験は商業高校にとって、とても大切である。3年生になると、進路を考えるうえで、より重要になってくる。保護者に対して検定についての取組やメリットを周知して欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>検定試験に取り組むことは本校にとって強みである。R7年度の結果の振り返りともっと強みを生かすための方策を教職員で検討していきたい。1年生の段階から保護者にもこれまで以上に丁寧に伝えていく。</p>			

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と次年度への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 B 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 生徒 【92】% 保護者【91】% 教職員【83】%	R7年度当初から授業時の挨拶について学校全体で取り組んでおり、挨拶がしやすい環境を作っている。生徒・保護者の肯定的評価は横ばいではあるが、教職員の肯定的評価がR6年度と比較して5ポイント向上した。この結果から、相手に伝わるさわやかな挨拶ができる生徒が増えてきていると考える。今後も相手に伝わる良い挨拶ができるよう学校全体で支援していきたい。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 110日以上である B 100日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価：【 D 】 34日	2学期末までの遅刻ゼロの日はわずか17日であった。しかし、遅刻者に対して、基本的な生活習慣の重要性を認識させることにより、遅刻者数は減少している。 R8年度は、保護者・担任との連携をさらに密にし、生徒の生活リズムや基本的な生活習慣を向上させ、遅刻者減につなげていきたい。
	③ マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、自ら考え、与えられた役割以上の仕事をすることができたと感じる生徒の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価：【 A 】 生徒対象アンケートの結果 肯定的評価の割合 全体 【79】% 1年 【68】% 2年 【81】% 3年 【86】%	肯定的な評価が79%であった。このことより、金商デパートが主体性を育む貴重な実践の場となっていることが示された。特に学年が進むにつれて肯定的な回答は増加し、3年間の継続的な経験が、判断力や責任感の向上に直結していることが示された。一方で、1年生においては、経験不足から「自ら動く」ための判断基準が不明確である傾向が見られた。今後は、1年生がより早期に能動的な行動をとれるよう、学年を越えた仕組作りを構築していきたい。
	④ 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル（話す力・書く力）に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	評価：【 B 】 生徒の自己評価アンケートの結果 全体 【71】% 1年 【75】% 2年 【71】% 3年 【68】%	スモールステップでの言語活動やパフォーマンステストを通して、プロダクティブ・スキル（話す力、書く力）の向上が見られた。 その時だけの成果にとどまらずに、段階を追って発展的にスキル向上を目指すよう、R8年度は、Can-Doリストを参考にしながら、活動およびパフォーマンステストの内容を検討していく。
学校関係者評価委員会の評価		金商デパートは、活気があり、お客様の多さに圧倒される。PayPayは使用できるが、レジの渋滞を解消して欲しい。目当ての商品がすぐに完売されていたことも残念である。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針		金商デパートは生徒の学びの集大成と考えている。R8年度は、当日の観光ツアーの可能性も含め、地域との連携を図りたい。レジでの混雑、商品の仕入数量など今後さらなる改善に努めたい。		

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と次年度への課題
<p>3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。</p>	<p>① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。</p>	<p>就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、</p> <p>A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 3年 【98】%</p>	<p>R7年度は、履歴書作成の改定があり就職希望者に対してのガイダンスの内容の変更を余儀なくされた。履歴書作成の生徒の負担が大幅に軽減されたことに伴い教員の負担も減り、余裕を持って進路指導に臨めたことは良かった。しかし、今までの履歴書作成時の緊張感が欠け、面接指導やその他の指導においても精度が下がったのではないかと懸念材料が残った。売り手市場であってもしっかりと準備をし、試験に臨めるよう機会をとらえて伝えていきたい。</p>
	<p>② 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。</p>	<p>進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力を向上させることができたと答えた生徒が、</p> <p>A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である</p>	<p>評価：【 B 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 2・3年 【86】% 2年 【78】% 3年 【94】%</p>	<p>3年生に対する学習支援は、多極分散型で実施した。特に国公立大学受験者に対しては、学年・教科・課・職の枠を超え、延べ15名の教員による支援体制を構築し、金沢大1名、県立看護大2名、公立小松大1名、富山大9名が合格することができた。また、私立大学・専門学校受験者への個別指導についても、教員に担当を割り振り、協力を得ることができた。</p> <p>2年生は、2学期に進路指導課としてのガイダンスを設定できず、評価において4ポイントのマイナスとなった。3学期は1月より学年・課でガイダンスを5～6時間程度設定し、個別ガイダンスを行った。</p> <p>今後は、上級学校の情報収集、担任・生徒が見通しを立てやすい進路ガイダンスを開催し、進学希望者の3年間を通した指導体制の構築を図る。</p>
	<p>③ 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。</p>	<p>進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 B 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 1年 【76】%</p>	<p>1年生のガイダンスは計画通りに実施することができた。しかし、自分事としてとらえる意識が希薄であるように見受けられる。科目選択時に教科科目の説明だけではなく、進路希望においてもしっかりと考える機会を設けていきたい。また、1年生だからではなく、1年生から考えなければならぬことを伝えていく必要があるのではないかと考える。</p> <p>今後も学年団と連携を図り、進路実現に向けて努力をする事の意義を伝えていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>求人状況は好調であるが、今後もこの状況を維持していってほしい。</p>		
<p>学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>		<p>学校から各企業への求人依頼を今後ともこまめに行っていききたい。昨年度より参加したME X金沢は、生徒はもとより教員も地元の企業を知る良い機会だと考えている。今後も継続し、企業研究に努めたい。</p>		

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と次年度への課題
<p>4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動、安全教育等の更なる充実に取り組む。また、安全教育については、大規模災害を想定した避難訓練を実施する。</p>	<p>① 運動部の県大会において、優勝を目指す。</p>	<p>県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である</p>	<p>評価：【 B 】 ベスト4以上 ：【 8 】部</p>	<p>県総体においてベスト4以上の成績は卓球部女子、男女バレーボール、ハンドボール部、バドミントン部、少林寺拳法部、馬術部（臨時）である。また、野球部はベスト8、個人では陸上競技部、レスリング部（臨時）の活躍もみられた。新人大会で女子バレーボールが準優勝、卓球女子、バドミントン部、ソフトテニス部、少林寺拳法部がベスト4以上を取ったほか、陸上競技部、レスリング部（臨時）では個人優勝をおさめている。 ベスト4の成績を取った部活動はR6年度より増加している。R8年度も引き続き、決勝に進出し、優勝する部活動が増加するように支援する。</p>
	<p>② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、延べ4競技以上を目指す。</p>	<p>県大会（総文及び新人）で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である</p>	<p>評価：【 A 】 団体優勝 ：延べ【 9 】競技</p>	<p>高文連商業部競技大会および新人大会において、珠算、電卓、ワープロ競技で団体優勝することができ、ESS部は総文で団体優勝することができた。 また、演劇部が県合同発表会で最優秀賞、吹奏楽部が金賞を受賞することもできた。R9年度の全国総文石川大会で活躍できるように支援する。</p>
	<p>③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。</p>	<p>各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 84 】% 1年 【 81 】% 2年 【 86 】% 3年 【 86 】%</p>	<p>R7年度も意識が高まり、A評価となった。ボランティア委員会も年2回活動し、積極的に学校周辺の清掃などに取り組んだ。また、部活動でも様々な活動に取り組んだ。</p>
	<p>④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを旨とする。</p>	<p>清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である</p>	<p>評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 99 】% 1年 【 98 】% 2年 【 99 】% 3年 【 99 】%</p>	<p>生徒の清掃、ゴミ分別意識については良好である。また、R7年度は教室・一部の特別教室のワックスがけを行うことができた。 R8年度も美化委員会活動をさらに活性化し、生徒が学習環境の向上を意識できるよう働きかけていく。</p>
	<p>⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起さない学校づくりに努める。</p>	<p>いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p>評価：【 A 】 後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【 100 】%</p>	<p>どんな小さな情報も共有し、チームで対応する体制を構築し、風通しの良い学校づくりに努めた結果、肯定的評価が100%となった。これを継続できるよう教職員の意識・行動を一層高めていきたい。</p>
	<p>⑥ 生徒の安全確保を図るため、実践的な安全教育を推進する。</p>	<p>避難訓練の際に自らの命は自らが守る意識を持ち、主体的に行動できたという生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 98 】% 1年 【 96 】% 2年 【 99 】% 3年 【 99 】%</p>	<p>震災の経験により防災意識は高く、主体的に避難行動しようとする生徒が大部分だったが、自ら行動できず指示を待つ生徒もいた。これからも様々な事態を想定した避難訓練を実施し、教職員、生徒の意識・行動を高めていきたい。</p>
	<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>安全教育に注力するのは、自然災害も多い昨今必要なことである。</p>	
<p>学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>		<p>例年行っている避難訓練だけではなく、学校外であっても、自らの命は自らが守る意識を持ち、主体的に行動できるようにする実践的な防災教育に取り組んでいきたい。</p>		

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と次年度への課題
5 開かれた学校づくりに向けて、教育活動の成果の積極的な発信に取り組む。	学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページ、広報誌やPTA活動等を通じて発信する。	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 B 】 後期保護者による学校評価アンケート肯定的評価の割合【 88 】%	肯定的評価の割合は88%であり、R7年度は概ね肯定的な評価を得られることができた。より充実したホームページとなるよう、次年度も引き続き各分掌・PTA・部活動と協力し合いながらタイムリーな情報発信や会報の発行に努めていきたい。
6 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選と遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。	年間の時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員の数が、年間で、 A 0人である B 1～3人である C 4～6人である D 7人以上である	評価：【 B 】 4月～12月における時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員数 【 2 】人	R6年度より1人減少した。時間外勤務時間80時間超えの主な要因は、行事等の準備と部活動指導であった。前者については、業務の平準化に努めるとともに、削減できる業務がないか一層の見直しをかけていきたい。後者については、部活動休業日は確実に定時退庁するとともに、年間を通して適切な勤務時間になるよう声掛けを徹底していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		中学生に向けて、公式のYouTubeや公式のSNS等での学校の魅力発信が必要であると考える。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		魅力を発信することは、学校経営上非常に大切である。前向きに可能性を検討していきたい。		